

米ドル高・円安はどこまで進むか

日米5年国債金利差との相関から想定される水準

2022年3月23日

125円を超える可能性低く、123円程度が上値目途に

米ドル円は2016年2月以来の121円台に上昇しました。米ドル高・円安の要因として挙げられるのは、米利上げペース加速観測、供給懸念によるエネルギー高の一服、日銀総裁の円安容認発言などです。最近、米金融当局者からインフレ抑制のために利上げを速く進める必要性を指摘する声が相次ぎ、米金利上昇・米ドル高に作用しています。そして、対ロシア制裁を背景とした供給懸念によるエネルギー高が一服したことがリスクオンの円安に作用しています。また、黒田日銀総裁が「現状、円安が経済にマイナスというのは間違い」などと発言したことが、円安進行に対する市場の警戒感を弱めています。

米ドル円の行方を左右する最重要要因は、米金利動向と考えます。日米5年国債金利差と米ドル円には高い連動性があり、現状の米ドル円はこれまでの米金利上昇に見合う水準にあります（22日時点で日米金利差2.34%、米ドル円120.8円）。過去2年間ほどの傾向に従うと、日米金利差が2.4%では121.3円、2.5%では122.0円、2.6%では122.8円を中心に±3.1円以内に収まる確率が高いと言えます。

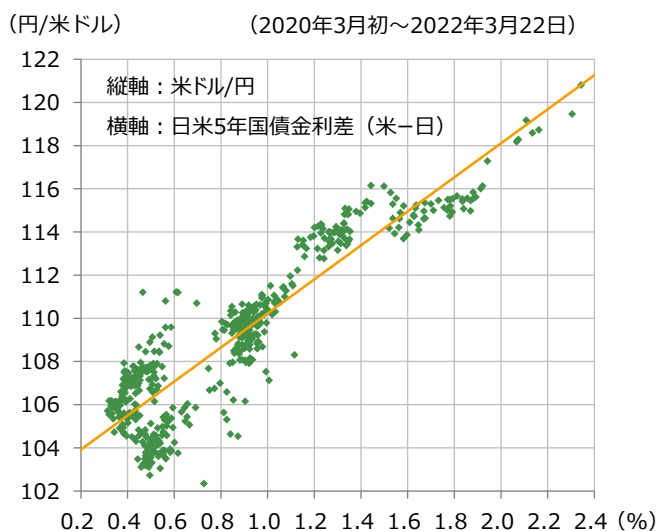
最終的な政策金利水準が3月FOMC（米国連邦公開市場委員会）予想の2%台後半程度であれば、米5年国債金利の上昇余地は小さいでしょう。また、ウクライナを巡る地政学リスクが高まって供給懸念が再燃した場合には、エネルギー価格の高騰が景気悪化懸念を生んで米金利と米ドル円を反落させるリスクもあります。今後、米ドル円が125円を超えて上昇する可能性は低く、123円程度が上値の目途と考えます。

日米5年国債金利差と米ドル円①



(出所) リフィニティブより大和アセット作成

日米5年国債金利差と米ドル円②



(出所) リフィニティブより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目録見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント